



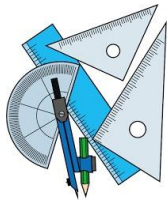
令和4年度

小野小だより



特別号

10月20日



令和4年度

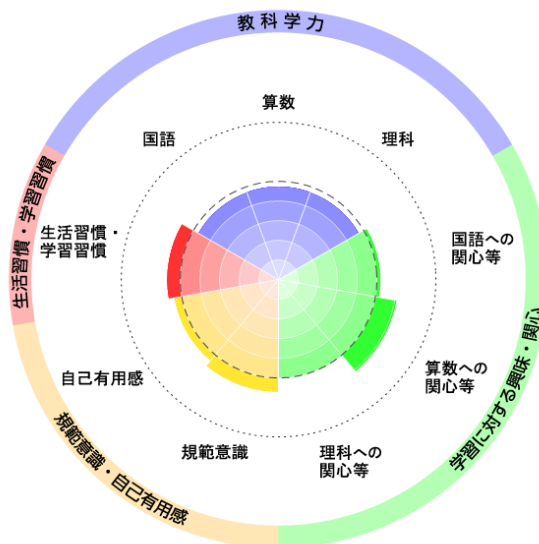
全国学力・学習状況調査より

本年4月末に全国の小学校6年生を対象に、国語・算数・理科の学力調査及び生活状況調査が実施されました。本校の結果を全職員で分析・協議し、指導に活かしているところです。ここに、分析の概要について報告します。また、家庭での生活においても、お子様への関わり等に活かしていただくようお願い致します。

なお、6年生児童の個票は9月末に渡しています。

調査の概要

～領域別分析～



◆左のグラフの内側の点線は、全国基準を示します。

- ・教科学力は、全国と同程度で、領域によっては課題が見られます。
- ・生活習慣、学習習慣は大変良く身についています。規範意識も高く、高学年になり落ち着いた生活ができていることが反映されています。
- ・特に算数への関心が高くなっています。全体に大きな凹みの課題が見られないのが一番評価できる点です。

学習

	本校	全国
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている	91%	80%
自分と違う意見について考えるのは楽しい	83%	74%
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する活動に取り組んでいる	82%	73%
国語の全ての書く問題で、最後まで解答を書こうと努力した	73%	78%
算数の授業内容はよく分かる	93%	81%
理科の勉強は好きだ	80%	80%
家で自分で計画を立てて勉強している	83%	71%

◆各教科で話し合い活動（対話）を重視して授業展開をしている成果が出ています。また、総合的な学習がこれからの社会を生きていく上で、培いたい力になると言われ、見直しが図られている中、本校は良い傾向が出ています。

◆27%の子が、書く問題で解答しなかったり、書くことを途中であきらめたりしたというのは少し残念な点です。算数も理科も約20%の子がそう答えていました。

◆3教科とも「好き」「よく分かる」と答えた率が高くなっているのは、嬉しいところです。

【各教科の詳しい分析より】

○：できている △：課題

【国語】

- 人物像や物語の全体像を具体的に想像する
- 文章全体の構成や書き表し方などに注目して、文や文章を整える
- 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く
- △登場人物の相互関係について、描写を基に捉える
- △表現の効果を考える △条件作文を書く

【算数】

- 目的に応じたグラフを選択する ○最小公倍数を求める
- 示された場面を解釈し、求められる理由を記述する
- △目的に合った数の処理の仕方を考察する
- △数量が変わっても割合は変わらないことを理解する

【理科】

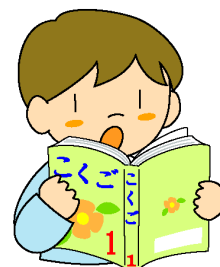
- 昆虫の体のつくりや器具の名称などの基本的な事項
- 観察で得た結果を問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつ
- △水溶液や水蒸気など「粒子」を柱とする領域
- △光の性質など「エネルギー」を柱とする領域



考察と今後の対策

【国語】

- ・長文を最後まで正確に読み切ることができにくく、書く課題につながっています。「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面に着目して読んでいく力も必要です。
- ◎朝の「さわやか読書」タイムや家庭読書の取組を継続して、読書量を確保していきたいと考えています。引き続き、家庭での読書タイムの設定にご協力願います。
- 授業の中では、正確に読み取りながら、字数やキーワード、その他の条件を加えて、粘り強くまとめて書くことに力を入れていきます。



【算数】



- ・問題を解くために多くの情報から必要な情報を取り出すことは、全国的にも課題になっています。例年のごとく、割合の単元や概数、目的に合った見積もりの仕方は子ども達にとっては苦手な分野です。算数科でも全体的に記述問題が課題です。
- ◎生活経験と結び付けた計算や、算数用語や図形の性質等を使って筋道を立てて記述し、説明できる力を継続して育成していきます。また、全般的に苦手な子が多い単元では、じっくりと考える時間を取って、学習内容の確実な習得をめざします。

【理科】

- ・基礎知識があることを前提に考える問題が多く出ました。中学年からの理科の授業内容をしっかりと習得できているかどうかの結果に出ています。既習事項と資料とを結び付ける力や問題を読み取る力が必要な記述問題が課題となっています。
- ◎資料の中の様々な情報から読み取れることを書き出したり、発表したりする時間を組み入れていきます。また、問題を見い出し、自分の疑問を解決するための実験を考える学習や日常生活との関わりの中で捉え直す学習場面の設定を大事にしていきます。



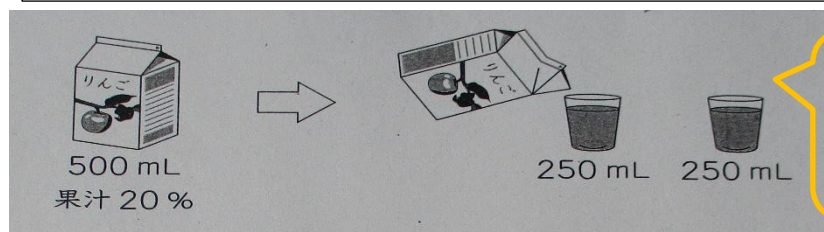
(裏面へ)

例えばこんな問題が出ました！

- ◆数量（飲み物の量）が変わっても割合（飲み物の濃さ）は変わらないことを理解しているかどうかを問う問題です。

りんごの果汁が20%含まれている飲み物が500mLあります。
この飲み物を2人で等しく分けると、一人分は250mLになります。

算数



日常の場面の中に
算数があります

- 1 飲み物の量が2分の1になると、果汁の割合も2分の1になる
- 2 飲み物の量が2分の1になると、果汁の割合は2倍になる
- 3 飲み物の量が2分の1になっても、果汁の割合は変わりません



*正解は3で 正答率は20%でした。

- ◆日光は直進することを理解しているかどうかを問う問題です。

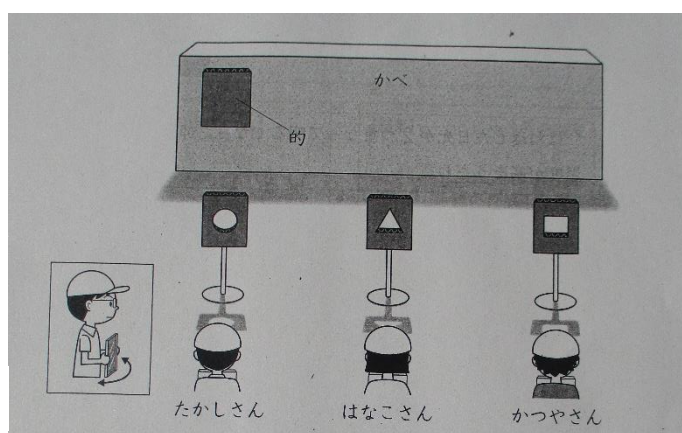
3人がこの図の位置で鏡の向きを変え、それぞれが日光をはね返して3つの段ボールの板にあてたときに、かべの左にある的に、三角形の光をあてることができるのはだれですか。

理科

生活経験や実験
からの思考が
問われました

- 1 たかしさん
- 2 はなこさん
- 3 かつやさん
- 4 全員

*正解は3で 正答率は26%でした。



☆全国的に一日当たりのゲームやSNS、動画視聴などをしている時間が長い児童生徒ほど、各教科の正答率が低い傾向が見られることが分かっています。

【ゲームの時間】
を見直そう！



生活

	本校	全国
学校に行くのが楽しい	92%	85%
平日のゲームの時間が1時間以内	23%	24%
平日のSNS使用、動画視聴の時間が1時間以内（携帯・スマホを持っていないを含む）	57%	49%
学校の授業時間以外の1日の読書量10分以上	69%	60%
読書は好きだ	68%	73%
朝食を毎日食べている	90%	94%

- ◆まずは、「学校へ行くのが楽しい」と言ってくれるのが、何よりも嬉しいことです。子ども達にとって、安心して学校に通い、学べる環境であることが学習以前に大事な事です。
- ◆小野市で展開している脳科学理論をベースとした教育の中で、ゲーム・SNS 関係を1時間以内ということは啓発し続けています。守れている57%という数字をどう見たらいいでしょう？昨年までと比較すると、ゲームの時間が多いことが懸念されます。読書量は増えてきていますが、まだ、数的には満足いくものではありません。また、同時に啓発している毎日の朝食の摂取率も下がっているのが気になります。朝ご飯は、学校での元気の素。学習への集中力、心の安定に大きく影響するものです。

人としての生き方

	本校	全国
自分にはよいところがある	80%	79%
将来の夢や目標を持っている	83%	80%
先生は、あなたのよいところを認めてくれている	94%	87%
自分がやると決めたことはやり遂げるようにしている	87%	87%
人が困っているときは進んで助けている	91%	89%
いじめは、どんな理由があってもいけないと思う	99%	97%
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している	78%	73%
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる	75%	69%

☆自己イメージの小さい子は、幼少期に承認の経験が少ないと言われています。自己イメージを拡大するために、「小さなことができること」を大きく褒めて承認し続けましょう。学校でも自己肯定感を高める人権教育を推進していきます。

☆子どもの気持ちに寄り添いながら人としてよりよい生き方の話を・・・

- ◆「自分にはよいところがある」と答えられるには、周囲がそれを認め、伝えていなければその感情は育ちません。100%を目指したい部分です。「先生は自分のよいところを認めてくれている」という項目で高評価されているのは大変嬉しいところです。相談できにくい子もいることから、大人がアンテナを高く持ち、困りごとや不安に応えられる環境をつくっていけるよう努めていきましょう。

他にこんな質問もありました！ < ICT 機器について >

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか？

- ◆90%の子ども達が「役に立つ」と答えました。現在、小野市ではクロムブックを一人一台使っていますが、子ども達の学習理解の一助になっている様です。頭を働かせ、学力向上につながる使い方について研究を進めていきます。



この全国学力・学習状況調査は、毎年、児童の学力と普段の生活が密接に関連していることが、浮き彫りになっています。生活や心の基盤が安定していると、その子が本来持っている力がどんどん伸びていきます。今後とも、お子様の学力向上のため、ご家庭と連携しながら取り組んでまいりたいと思います。